

916N0040-111
11.12.10

おはよう
おはよう
ME RO HA



あー！
ご主人様やっ
起きてくださいましたー！
おはようございませぬ、

ふああ…
メロディ
おはよ…
毎朝
ありがとうございます…



R18

「お布団を干し……
あっ……きょっ
今日もお元気で
あらせられれれ……」
『わあー！メロディー！
だから急に剥がすの禁止！
やっぱり見られるのは慣れないよー！』



ご主人様は
裸で就寝されているので
ほぼ毎朝こういう事が
起きちゃいます
ドジな私はいつも
言いつけを忘れて
お布団を剥がして
しまっんです



117

「メロディ
いつも「メン」

「いえ…
これもメイドの務めですから」

クラウさんにも習いました、
ご主人様の朝の性処理は私のお仕事

ご主人様のソシはとても立派で
私も飲み込むのに
少しの時間が必要でした

さすが今ではすっかり
ご主人様のカタチを
覚えてしまいました

私のナカはご主人様専用
に作り変えられ、
隙間無くフィットするよう
に寝られています

こんな暴力的なカタチなのに
一切乱暴にはせず
さらには...

「メロディ...
大丈夫？」

優しく
気遣って
くださるメロディ

おっぱい = ♡

そして膣内、子宮内を傷つけないように
ゆっくりと♡しつとじ♡ 優しく優しく
お射精をしてください♡

私はこの瞬間が好きで
いつも小さくイってしまします
ご主人様には
ナイシヨですよ♡

あ♡
あ…

はあ♡

あ…♡

ん♡

♡♡…

…気持ちいい
かなあ…♡

♡♡♡

♡♡♡



この時点でもう私は
ご主人様にメロメロです
しかしメイドとしての
職務も全うしなくてははいけません

「では…
朝食の準備を
しちやいますね…♡」

「うん
お願いね」

ちなみにご主人様にお射精頂いた後は
下着を穿く事はできません
穿くとべったりと濡れてしまうのです





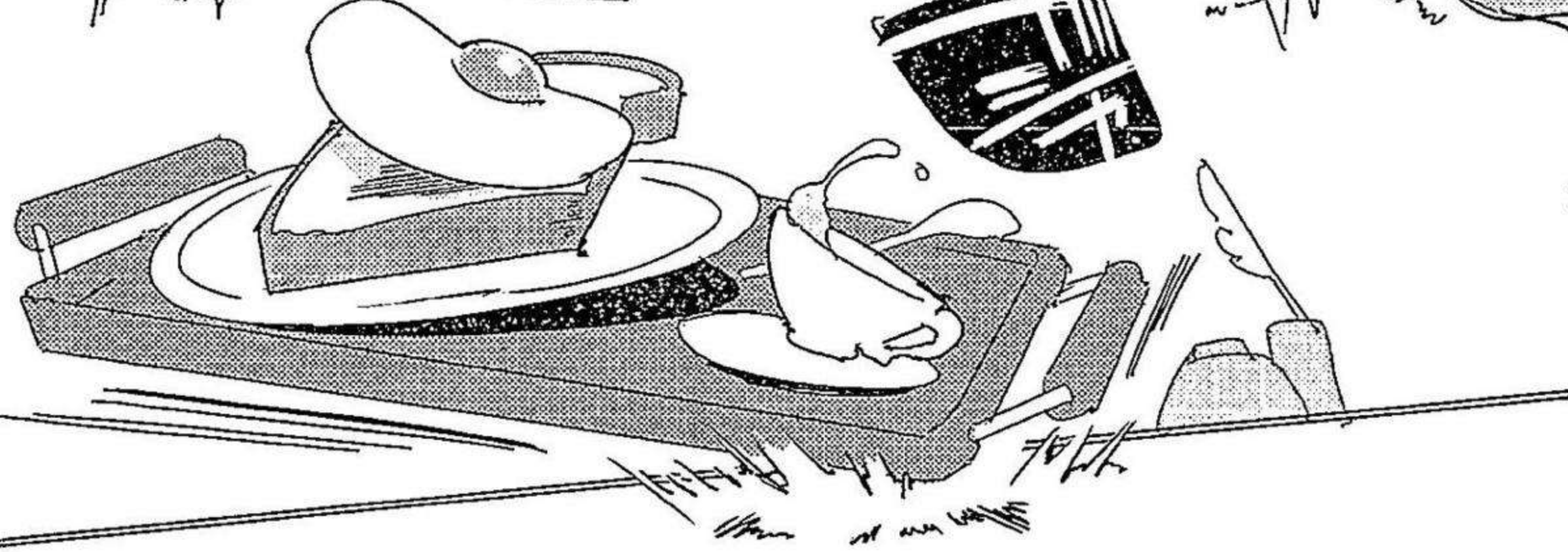
私が朝食の準備をする間
ご主人様は静かに
お待ちくださいます

配膳台から
朝食を盛り付け
ご主人様の
元へ…



…慎重にお運び…
「少々
お待ちくださいね…」

「あ…あ…」



「アッ、アッ……アッ……アッ……
お腹にご主人様の……温度が……
あつ……アッ、イクッ……アッ」

「メロメロ……」

配膳途中なのにも関わらず私は
足腰が砕け、ご主人様に寄り掛かりながら
果ててしまいます

ですがご主人様はこんな私を
支えてくださったんです



切なそうな私の表情に
察して下さったのか、
キスをしてくださいました
こうなるともう止まりません♡

上のおクチ、舌のおクチ
お水が出てくる穴で
ご主人様とひたすら
体液交換を行います

ヒトは70%が水
などと言われて
いますが、
私に身体は
その70%が
ご主人様の水で
出来ているに
違いありません♡

「ごひゅじんひやま…
ひゅき…好きい…♡」

「俺もだよ」

「…♡♡♡♡♡」

呼吸が止まるかと思ひんぐに
幸せでした
ご主人様大好きです♡♡♡



「朝食はっくご願って
ごめっ……ごめっ……
ごぶんださい……」

「メロディの
おっちょこちよいには
もう慣れたよ
後で一緒に
食べようね♡」

「ご主人様が
優しいすぎるよあ〜……
どっしり私……」



おん
な

発行日 2018/12/30(c95)

発行 サークル・ぽてとさらだ
hi_mekuri@hotmail.co.jp
https://twitter.com/hi_mekuriguri

※本誌の18才未満の方の購読禁止
WEB上へのアップロード・複写等の禁止

